

がん研究会有明病院
消化器センター 大腸外科部長

上野 雅資 先生

名医に聞く

がんの予防と治療

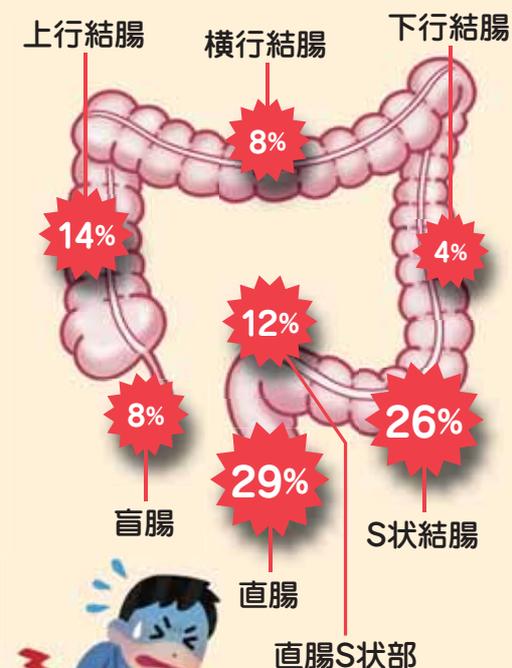
大腸がんは、食生活の変化とともに患者数が増加し、現在、日本人にとって最も多いがんとなっています。大腸がん治療がご専門の上野先生に大腸がんの予防と治療について伺いました。

大腸がん

Q1 大腸がんはどんな病気ですか？

A 盲腸、結腸、直腸からなる「大腸」にできるがんで、40歳代から増加し始め、高齢になるほど高くなります。大腸がんのリスクを高める要因としては、肥満や飲酒、赤肉(牛・豚・羊の肉)や加工肉(ベーコン、ハム、ソーセージなど)の食べ過ぎが指摘されています。そのほか、高身長の人や、親族に大腸がん患者がいる人で、リスクが高い傾向にあります。

日本人は S状結腸と直腸にがんがしやすい



がん研有明病院ホームページより【2005年3月～2009年12月にがん研有明病院で外科手術を受けた初発大腸がんの患者(初めて大腸がんにかかった患者)2822名についての調査】

Q2 大腸がんのリスクを減らすことはできますか？

A まず、肥満の人は減量にチャレンジしましょう。運動は大腸がんのリスクを下げるので、ウォーキングなどを取り入れることをおすすめします。また、お酒を飲む習慣のある人は、節度のある飲酒を心がけてください。大腸がんは早期発見・早期治療ができれば、ほぼ治すことができます。**40歳以上は毎年大腸がん検診を受けましょう。**

大腸がんに関する検査

- 便潜血検査
…40歳以上は年1回の受診をおすすめ
自宅で採取した便を提出し、便に血液が混じっていないかどうかを調べます。症状がない健康な人から、大腸がんの精密検査が必要な人を選び出すためには、最も有効で負担の少ない検査法です。
- 大腸内視鏡検査
…主に精密検査として実施します
大腸を内視鏡で観察する方法で、がんやポリープに対する診断が高い確率で可能なことが特徴です。まれに出血や腸に穴が開くなどの事故が起きる可能性があるため、比較的高度な技術を必要とする検査で、主に精密検査として行われます。

Q3 大腸がん治療にはどのようなものがありますか？

A 大腸がんの治療法には、内視鏡治療、手術、薬物療法、放射線治療などがあり、がんの進行度や全身状態などを考慮して決められます。手術は治療効果の高い方法ですが、直腸がんの手術では、排便習慣の変化や排尿機能・性機能の障害などの後遺症が起こる場合があるので、担当医とよく相談して決める方がよいでしょう。